

学 習 の し お り

2年生用



2 0 2 6

宮城県宮城広瀬高等学校

目次

1. これからの高校生活にあたって	1
2. 令和8年度入学生教育課程	3
3. 各教科目の年間授業計画と学習の仕方(各教科)	4
4. 学習計画表(第1回～第4回定期考査)	36
5. 考査点・評価点をまとめよう	52
6. 私のスケジュール	53

可能性を広げる確かな学力のために

宮城広瀬高等学校 教務部

「学力」は総合力です。基礎的な知識や理解力だけでなく、一生懸命取り組もうとする意欲、学ぶ努力をしようとする姿勢、創造力や表現力などは、これから皆さんが社会に出て生きていくときに必要なものです。これらは授業を中心とする高校生活の活動をとおして学んでいくことができます。高校で一生懸命勉強した人は、その後の人生においても自分の可能性を広げることができるのです。

この「学習のしおり」は、皆さんがこれから1年間、授業で学ぶそれぞれの教科・科目について、学習目的、学習内容、評価の方法と基準をまとめたものです。また、定期考査毎の学習計画表など、自分で自主的に取り組めるようになっており、皆さんの学習に役立つように工夫してあります。

1 履修について

履修とは授業に出席してきちんと授業を受けることをいいます。本校では、授業の欠課時数が標準時数(単位数×35時間)の3分の1を超えると履修が認められません。また、本校では全科目の履修を義務づけています。つまり、授業のある一定以上休んでしまうと履修が認められず、履修が認められない科目が1つでもある場合は、もう一度最初から同じ学年をやり直さなければなりません。

2 単位について

本校で設定している教科・科目は、それぞれに単位が定められています。たとえば、「数学Ⅱ」は週4時間授業があるので、「4単位」の授業となります。

単位とは、各科目が1週間に実施される時間数のことをいいます。各科目等の1週間の授業時間が合計で31時間あるので、1年間で31単位分の授業を受けることになります。

3 単位修得と進級・卒業について

単位修得とは、1年間きちんと授業を受けて履修の認定を受けた科目の成績が一定の基準を満たした場合、年度末の3月に行われる成績会議で認定されるものです。

本校では卒業までに74単位以上を修得しないと卒業できません。また、2学年から3学年に進級するためには、修得単位の合計が50単位以上必要です。もし修得単位数が基準に満たない場合は原級留置(留年)となり、もう一度2学年をやり直さなければなりませんので、十分注意して下さい。

4 定期考査と成績(評点)について

皆さんの日頃の学習の成果を確かめるために設けられているのが定期考査です。実技教科(体育・芸術等)を除くほとんどの教科・科目について、年4回、定期考査(試験)を実施します。定期考査の点数を含め、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点に基づいて総合的に評価を行い、皆さんの成績(評点)が出されます。

考査は絶対に欠席しないでください。欠席にやむを得ない理由がある場合は追考査の受験を認めますが、その場合、最大でも得点の8割しか考査点として認められません。(忌引きや感染症等の出席停止、大会参加等の公認と認められる欠席の場合は、追考査の得点を10割認めます)やむを得ない理由以外で考査を欠席した場合には、考査点が0点となります。また、考査等において不正行為を行った場合には、当該科目の考査点が0点となるほか、相当の指導を受けることになります。

5 欠点と再指導について

30点未満の評点が欠点(赤点)です。欠点となった科目については、定期考査終了後、再指導を受けることができます。再指導は各回の定期考査終了後に実施します。ただし、第4回については、4回分の評点の合計が120点に満たない者のみを対象とします。再指導を受ける際には、生徒本人と保護者等が連署・押印した「再指導願」を教科担任に提出してください。再指導の成果が良好であれば、評点は最高で30点となります。再指導を受けなかった場合や再指導の成果が良好でない場合は、評点は欠点のままになります。

6 評定について

年4回出される成績(評点)を平均した点数が学年成績(一年間の成績)となり、5段階の評定が決まります。評定は学年成績が80点以上の場合「5」、65~79点は「4」、45~64点は「3」、30~44点は「2」、欠点である29点以下は「1」です。評定が「1」の場合はその科目の単位の修得は認められません。この評定は、皆さんが進学や就職するときに重要ですので、欠点とならないようにしてください。

7 技能審査成果の単位認定

本校では、下表に示す技能審査に合格した場合、進級・卒業のための単位として認定しています。学校で受検できるものもあるので、積極的に受けることを期待しています。

技能審査の種類			対応する教科・科目		認定 単位数
主催団体	名称		教科	学習指導要領対応科目	
(公財)日本英語検定協会	実用英語技能検定	2級	外国語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ	いずれか 2単位
国際教育交換協議会日本代表部	TOEFL	IBT 48~67 点	外国語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ	いずれか 2単位
(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC L&R/S&W	1150~ 1550点			
(公財)日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定	準2級 2級	国語	現代の国語	1単位 2単位
(公財)日本数学検定協会	実用数学技能検定	準2級	数学	数学Ⅰ	1単位
		2級		数学Ⅱ	2単位
		準1級		数学Ⅱ 数学Ⅲ	いずれか 2単位
(公財)全国商業高等学校協会	情報処理検定	1級	商業	情報処理	2単位
(公財)全国商業高等学校協会	ビジネス文書実務検定	1級			
(公財)全国高等学校家庭科教育振興会	全国高等学校家庭科食物調理技術検定	2級	家庭	家庭基礎 フードデザイン	いずれか 1単位
		1級			いずれか 2単位
(学)香川栄養学園	家庭料理技能検定	2級	家庭	フードデザイン	2単位

8 学校外学修の単位認定

「社会体験・ボランティア活動」

主体的・継続的に取り組む姿勢を評価するため、「社会体験・ボランティア活動」という学校設定科目を設けています。年度始めに活動届を提出し、学校内外のボランティア活動に参加した時間が50分×35=1750分となるなど、本校の定める条件を満たした場合、各学年で2単位まで修得することができます。ただし、これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

「社会体験・インターンシップ活動」

2学年の生徒で、夏季休業中又は3月に進路指導部が実施するインターンシップに参加し、本校で定める条件を満たした場合に、「社会体験・インターンシップ活動」という学校設定科目で1単位修得することができます。ただし、これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

宮城県宮城広瀬高等学校【令和7年度入学生教育課程】

※太字は必修科目

単位	【第1学年】		【第2学年】		【第3学年】				単位		
					理系大学／高等看護		文系大学／専修各種学校／就職				
1	現代の国語(2)		※論理国語(2)		※論理国語(2)		※論理国語(2)		1		
2									2		
3	言語文化(3)		※文学国語(2)		※文学国語(2)		※文学国語(2)		3		
4									4		
5	地理総合(2)		※古典探究(2)		※古典探究(2)		※古典探究(2)		5		
6									6		
7	公共(2)		歴史総合(2)		政治・経済(3)		政治・経済(3)		7		
8									8		
9									9		
10	数学I(3)		数学II(4)		体育(2)		体育(2)		10		
11									11		
12									12		
13	数学A(2)		P 数学B(2)	音楽II(2)	美術II(2)	英語コミュニケーションIII(4)		英語コミュニケーションIII(4)	13		
14									14		
15	生物基礎(2)		化学基礎(2)						15		
16					A 数学C(2)	論理・表現III(2)	論理・表現III(2)		16		
17	体育(3)		Q 物理基礎(2)	地学基礎(2)					17		
18			体育(2)						18		
19	保健(1)				B 数学III(4)	発展理系数学(4)	地理探究(4)	日本史探究(4)	世界史探究(4)	19	
20									20		
21	X 音楽I(2)	美術I(2)	保健(1)						21		
22							発展文系数学(2)	音楽III(2)	美術III(2)	情報処理(2)	22
23	英語コミュニケーションI(3)		英語コミュニケーションII(4)		C 化学(4)				23		
24							応用英語(2)	スポーツI(2)	生活と福祉(2)	ビジネス基礎(2)	24
25									25		
26	論理・表現I(2)		論理・表現II(2)		E 物理(4)	生物(4)	実践化学基礎(2)	実践地学基礎(2)	保育基礎(2)	ビジネス・コミュニケーション(2)	26
27									27		
28	情報I(2)		家庭基礎(2)		F 物理(4)	生物(4)	実践生物基礎(2)	フードデザイン(2)	器楽(2)	情報メディアデザイン(2)	28
29									29		
30	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		30		
31	ホームルーム活動(0)		ホームルーム活動(0)		ホームルーム活動(0)		ホームルーム活動(0)		31		

「学校外学修」による単位認定



ボランティア活動は各学年最大2単位、3年間で6単位までの修得が可能。インターンシップ活動は第2学年のみ1単位まで修得可能。

32	社会体験・ボランティア活動(0), (1), (2)	社会体験・ボランティア活動(0), (1), (2)	社会体験・ボランティア活動(0), (1), (2)	32
33				33
34	*	社会体験・インターンシップ活動(0), (1)	*	34

「第3学年」における単位数及び科目選択について

	理系の単位数	文系の単位数	
国語	6	6	理系等
地理歴史	0	4	
公民	3	3	
数学	4, 6	0, 2	文系等
理科	8	0, 2, 4	
保健体育	2	2, 4	
芸術	0	0, 2, 4	
外国語	4, 6	6, 8	
家庭	0	0, 2, 4, 6	
商業	0	0, 2, 4, 6	

理系等	A	16～17	数学C(2)又は論理・表現III(2)を選択
	B	18～21	数学III(4)又は+発展理系数学(4)を選択
	E F	26～29	物理(4)又は生物(4)を選択
文系等	B	18～21	地理探究(4), 日本史探究(4), 世界史探究(4)から1科目選択
	C	22～23	発展文系数学(2), 音楽III(2), 美術III(2), 情報処理(2)から1科目選択 音楽III(2)は第2学年で音楽II(2)を, 美術III(2)は第2学年で美術IIを履修した者が選択できる
	D	24～25	応用英語(2), スポーツI(2), 生活と福祉(2), ビジネス基礎(2)から1科目選択
	E	26～27	実践化学基礎(2), 実践地学基礎(2), 保育基礎(2), ビジネス・コミュニケーション(2)から1科目選択
	F	28～29	実践生物基礎(2), フードデザイン(2), 器楽(2), 情報メディアデザイン(2)から1科目選択

 就職希望者は選択することが望ましい
  福祉・保育関係の進路希望者は選択することが望ましい

分割履修科目について(※)

論理国語, 文学国語, 古典探究は第2学年及び第3学年における分割履修科目である。

学校設定科目について

社会体験・ボランティア活動は第1学年, 第2学年及び第3学年における学校設定教科・科目である

社会体験・インターンシップ活動は第2学年における学校設定教科・科目である

発展理系数学, 発展文系数学, 実践化学基礎, 実践生物基礎, 実践地学基礎, 応用英語は第3学年における学校設定科目である。

2学年 論理国語

○学習のねらい

言葉による見方や考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3) 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。授業で取り組む活動について、事前の情報収集が大切です。担当の先生の指示に従い、事前の準備を進めましょう。

授業 ～主体的に取り組む態度～

進んで筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って考えを深めましょう。ペアワークやグループワーク、言語活動を通して、他者の考えから考察を深めたり、自身の考えを表現したりしましょう。

復習 ～ふりかえり～

その日の授業を通して、具体的に何ができるようになったのかを書き留めておきましょう。できるようにならなかったという反省も大切です。次回の課題にしていきましょう。

○評価の方法○

観点ごとのポイント							
I 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。						
II 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることが出来る。						
III 主体的に取り組む態度	言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。						
評価の場面	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
I 知識・技能	◎	◎		○			
II 思考・判断・表現	○			◎	◎		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	○	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	論理国語	2学年 全クラス	2	新編 論理国語 (大修館書店)	新編論理国語 学習ノート(大修館書店) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) TOP2500 三訂版(いづな書店)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:達成できた B:まあまあ C:達成できなかった
4	第一回 考查範囲	○論理と出会う 汐見稔幸「知の登山、知の水路」 野矢茂樹「『論理的な人』とはどういう人か」	6 読む	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができた。	A・B・C
		○論理的に説明する 「論理」への第一歩	4 書く	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができた。	A・B・C
5		○具体例の役割を意識して読む 上田恵介「ウサギの耳はなぜ長い?」	6 読む	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができた。	A・B・C
6	考查		1			
7	第二回 考查範囲	○具体と抽象の関係を理解して読む 伊藤垂紗「記号的メディアと物理的メディア」	7 読む	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができた。	A・B・C
		○対比をとらえる 松岡慧祐「デジタル地図から見える世界」	6 読む	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫する。	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができた。	A・B・C
8		○比べて説明する 対比を使って主張する	4 書く	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にする。	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができた。	A・B・C
9	考查		1			
10	第三回 考查範囲	○主張をつかむ 坂村 健「人工の自然」	6 読む	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができた。	A・B・C
		○課題文を要約し意見を主張する 池内 了「文化としての科学」	5 書く	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができた。	A・B・C
11		○論理的に書く 反論を想定して書く	5 書く	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫する。	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができた。	A・B・C
12	考查		1			
1	第四回 考查範囲	○文章と資料を関連付けて読む 小林直樹「若者の『海外旅行離れ』は本当か?」	4 読む	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりする。	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができた。	A・B・C
		○統計資料を活用して書く 統計資料を活用する	3 書く	実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集・整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決める。	実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集・整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができた。	A・B・C
2		○情報を比較・整理して読む 内田 樹「紙の本はなくなるならない」	6 読む	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができた。	A・B・C
		○情報を整理して書く レポートを書く	4 書く	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫する。	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができた。	A・B・C
3	考查	新年度の準備	1			

2学年 文学国語

○ 学習のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。教科書の文章を一度通読し、語句の意味や漢字の読み方を調べておきましょう。共感できたところや感動した場面に線を引きながら読みましょう。

2 授業中～授業中の注意点～

登場人物の心情や場面の設定等に気をつけながら、一緒に読みを深めていきましょう。必要な事項はノートにしっかりと記入しましょう。ペアワークやグループワークを通して伝え合いながら考えを広げていきましょう。

3 授業後～復習～

授業を通して何が理解できたか、その都度振り返りましょう。読む前と後で、自分の中にどのような変化が生じたか、しっかり確認しましょう。ノートの記述を見ながら、もう一度通読しましょう。

○ 評価の方法

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。							
II 思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。							
III 主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
評価の場面	考查	考查以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考查	小テスト	学習状況の観察	作文	レポート	ノート	自己評価	
I 知識・技能	◎	◎		○				
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○	
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○	

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	文学国語	2学年 全クラス	2	文学国語 (東京書籍)	文学国語学習課題ノート(東京書籍) 新版七訂 新訂国語便覧(第一学習社) TOP2500 四訂版(いづな書店)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	随筆 ・小池昌代「光の窓」	3 読む	文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えること。	文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えることができる。	A・B・C
5		小説 ・中島敦「山月記」	10 読む	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができる。	A・B・C
6		言語活動 ・書評を書く	3 書く	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫することができる。	A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	詩歌 ・宮澤賢治「永訣の朝」	3 読む	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察することができる。	A・B・C
8		言語活動 ・共同で詩を創作する	4 書く	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができる。	A・B・C
9		小説 ・井伏鱒二「山椒魚」	10 読む	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めること。	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めることができる。	A・B・C
	考査		1			
10	第三回 考査範囲	評論 ・坂口安吾「文学のふるさと」	6 読む	作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深めること。	作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深めることができる。	A・B・C
		小説 ・安部公房「鞆」	7 読む	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察することができる。	A・B・C
11		言語活動 ・評論や解説を参考に論述する	3 書く	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	A・B・C
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	小説 ・夏目漱石「こころ」	13 読む	作品に現れているものの見方・感じ方・考え方を捉えると共に、作品が成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえ、作品の解釈を深めること。	作品に現れているものの見方・感じ方・考え方を捉えると共に、作品が成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。	A・B・C
1		言語活動 ・翻案作品を創作する	4 書く	文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。	文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすることができる。	A・B・C
2						
	考査		1			
3		新年度の準備				

2学年 古典探究

○学習のねらい○

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方・感じ方・考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。古典探究の授業では、ノートづくりが大切です。担当の先生の指示に従い、予習ノートを作ります。

授業 ～主体的に取り組む態度～

古典探究では、言葉に対する正しい理解が大切です。語句や文法への理解を深めていくとともに、作品や文章に表れているものの見方・感じ方を捉え、内容の探究的解釈を深めていきましょう。

復習 ～振り返り～

その日の授業の中で学習した語句や文法を復習しましょう。特に新しく触れた語句はしっかりと身に付け、次回からの内容の解釈に活用できるようにしていきましょう。

○評価の方法○

観点ごとのポイント							
I 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。						
II 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方・感じ方・考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。						
III 主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。						
評価の場面	考查	考查以外					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	考查	小テスト	学習状況の観察	レポート	作文	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎		○			
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	古典探究	2学年 全クラス	2	新編 古典探究 (東京書籍)	新編古典探究 学習課題ノート(東京書籍) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) 古典の手引き(いっずな書店)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:達成できた B:まあまあ C:達成できなかった
4	第一回 考查 範囲	○ 説話に親しむ 「十訓抄」	7	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。	A・B・C
5		○ 故事と小話 「小話一四編」	9	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	A・B・C
6		○ 随筆を読む 「徒然草」 「方丈記」	12	古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。	古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	A・B・C
	考查		1			
7	第二回 考查 範囲	○ 唐詩と文 「唐詩一八首」	6	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めること。	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めることができる。	A・B・C
8		○ 作り物語を読む 「竹取物語」	7	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。	A・B・C
9		○ 史記を読む 「項羽と劉邦」	8	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	A・B・C
	考查		1			
12	第四回 考查 範囲	○ 日記を読む 「土佐日記」 「更級日記」	8	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	A・B・C
1		○ 中国の知恵 「寓話一五編」	9	古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。	古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	A・B・C
2						
3	考查	新年度の準備	1			

2年 歴史総合

○ 学習のねらい

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

あらかじめ教科書や資料集に目を通し、教科書の問いや学習課題を確認し、概要をつかんでおくこと。

2 授業中～授業中の注意点～

- ① 授業に集中し、常に自分の知っている知識との関連性について考えること。
- ② 考えたこと、調べたこと、気付いたことなども積極的に発言したり、記録したりすること。

3 授業後～復習～

- ① 授業内容を振り返り、自分なりにまとめ、整理しておくこと。
- ② 問題集などに取り組み、自身の知識の定着を図ること。

○ 評価の方法

考査は学習内容が定着しているかを確認するものです。定期考査の割合は60%以上を原則として、下記の観点に基づいて総合的に評価を行います。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、近代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。							
	II 思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時代や年代、推移、比較、相互の関連や現在の繋がりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それを基に議論したりする力を養う。						
III 主体的に取り組む態度		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
	評価の場面	考査	考査以外					
①		②	③	④	⑤	⑥	⑦	
考査		小テスト	学習状況の観察	レポート課題など	学習の成果物	自己評価振り返りなど	グループワーク	
I 知識・技能	◎	◎		○				
II 思考・判断・表現	◎	○		◎		○	◎	
III 主体的に取り組む態度			◎	○	◎	○	○	

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
地理歴史	歴史総合	2年必修	2	歴史総合 近代から現代へ 改訂版 (山川出版社)	歴史総合 近代から現代へ ノート 改訂版 (山川出版社)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	歴史の扉	17	・歴史と私たち ・歴史の特質と資料 ・アジア諸地域の繁栄と日本 ・ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	・時間的な推移と空間的な結びつきで考える手法を理解する。 ・資料の読み取り方や、批判的に資料を読む手法を理解する。 ・アジアと欧州の交易を理解し、アジアの発展を考察する。 ・大航海時代と宗教改革を理解し、欧州の発展および近代化を考察する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5		第I部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ ・アメリカ世界の成立		・ヨーロッパ経済の動向と産業革命 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・19世紀前半のヨーロッパ ・19世紀後半のヨーロッパ ・19世紀のアメリカ大陸	・大西洋三角貿易と産業革命を関連性をもって理解する。 ・独立革命とフランス革命を理解し、市民革命を考察する。 ・ウィーン体制を理解し、自由主義と民族主義を考察する。 ・イギリス、フランス、ドイツに着目し、欧州の発展を理解する。 ・西部開拓と南北戦争を理解し、アメリカの発展を考察する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
6		第II部 国際秩序の変化 や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦 と大衆社会 第6章 経済危機と 第二次世界大戦		・西アジアの変容と南アジア・東南アジア の植民地化 ・中国の開港と日本の開国	・イギリス、フランスなどの欧州各国の植民地化について、 インドを題材にして、アジア諸地域の植民地化を理解する。 ・アヘン戦争と黒船来航から、東アジアの植民地化を理解する。	A・B・C A・B・C
7	第二回 考查範囲	第3章 明治維新と日本の 立憲体制 第4章 帝国主義の展開 とアジア	17	・明治維新と諸改革 ・明治初期の対外関係 ・自由民権運動と立憲体制 ・条約改正と日清戦争 ・日本の産業革命と教育の普及 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強の対立 ・日露戦争とその影響	・中央集権化と西欧化に着目し、明治維新を考察する。 ・岩倉使節団などを題材に、日本の初期外交を理解する。 ・民権派と明治政府の考えを基に、自由民権運動を考察する。 ・日清戦争を理解し、欧州と日本の条約改正を考察する。 ・産業革命を理解し、経済発展と教育について考察する。 ・第二次産業革命を理解し、帝国主義について考察する。 ・アフリカ分割を題材に、植民地獲得競争について考察する。 ・日露戦争を理解し、ロシアやイギリスとの関係を考察する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8		第II部 国際秩序の変化 や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦 と大衆社会 第6章 経済危機と 第二次世界大戦		・第一次世界大戦とロシア革命 ・国際平和と安全保障 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・大衆消費社会と市民生活の変容 ・社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 ・世界恐慌の発生と各国の対応 ・ファシズムの台頭 ・日本の恐慌と満洲事変 ・日中戦争と国内外の動き ・第二次世界大戦と太平洋戦争 ・新たな国際秩序と冷戦の始まり ・アジア諸地域の独立 ・占領下の日本と民主化 ・占領政策の転換と日本の独立	・第一次世界大戦を理解し、日本やロシアの変化を考察する。 ・パリ講和会議を理解し、ヴェルサイユ体制について考察する。 ・インド、中国、朝鮮に着目し、民族運動について考察する。 ・第一次世界大戦後のアメリカに着目し、大衆文化を考察する。 ・第二次護憲運動を理解し、大正デモクラシーを考察する。 ・世界恐慌を理解し、世界的な経済対立について考察する。 ・ドイツ、イタリア等に着目し、独裁体制について考察する。 ・度重なる日本の恐慌を理解し、日本の対外進出を考察する。 ・日中戦争を理解し、日本の内外の動向について考察する。 ・日本の敗戦について理解し、戦時体制について考察する。 ・冷戦構造を理解し、戦後社会の対立について考察する。 ・朝鮮戦争に着目し、冷戦下での代理戦争を考察する。 ・日本国憲法について理解し、日本の民主化を考察する。 ・日米安全保障条約を理解し、独立後の日本を考察する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
9		第III部 グローバル化 と私たち 第8章 冷戦と世界経済		・集団防衛体制と核開発 ・米ソ両大国と平和共存 ・西ヨーロッパの経済復興 ・第三世界の連携と試練 ・55年体制の成立 ・日本の高度経済成長 ・核戦争の恐怖から軍縮へ ・冷戦構造のゆらぎ ・世界経済の転換 ・アジア諸地域の経済発展と市場開放 ・冷戦の終結と国際情勢 ・ソ連の崩壊と経済のグローバル化 ・開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・地域紛争の激化 ・国際社会のなかの日本 ・現代世界の諸課題 ・現代日本の諸課題	・核兵器開発に着目し、集団安全保障について考察する。 ・「雪解け」に着目し、冷戦構造の変化を考察する。 ・ヨーロッパの復興を理解し、地域統合について考察する。 ・第三世界に着目し、欧米植民地の変化を考察する。 ・55年体制を理解し、日米関係について考察する。 ・高度経済成長を理解し、日本社会の変化を考察する。 ・核軍縮の動きに着目し、「デタント」について考察する。 ・ベトナム戦争に着目し、冷戦構造の変化を考察する。 ・ニクソン=ショックを理解し、世界経済の転換を考察する。 ・ブラザ合意を理解し、日本のバブル経済を考察する。 ・東欧革命に着目し、冷戦の終結について考察する。 ・ベレストロイカを理解し、ソ連の改革と崩壊を考察する。 ・開発独裁を理解し、独裁体制について考察する。 ・湾岸戦争以降の紛争を理解し、テロリズムを考察する。 ・冷戦終結に着目し、現代日本社会の変容を考察する。 ・紛争とテロ、貧困と難民など、世界の諸課題を探究する。 ・エネルギー、少子高齢化など、日本の諸課題を探究する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
10	第三回 考查範囲	第II部 国際秩序の変化 や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦 と大衆社会 第6章 経済危機と 第二次世界大戦	16	・日本の恐慌と満洲事変 ・日中戦争と国内外の動き ・第二次世界大戦と太平洋戦争 ・新たな国際秩序と冷戦の始まり ・アジア諸地域の独立 ・占領下の日本と民主化 ・占領政策の転換と日本の独立	・度重なる日本の恐慌を理解し、日本の対外進出を考察する。 ・日中戦争を理解し、日本の内外の動向について考察する。 ・日本の敗戦について理解し、戦時体制について考察する。 ・冷戦構造を理解し、戦後社会の対立について考察する。 ・朝鮮戦争に着目し、冷戦下での代理戦争を考察する。 ・日本国憲法について理解し、日本の民主化を考察する。 ・日米安全保障条約を理解し、独立後の日本を考察する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		第III部 グローバル化 と私たち 第8章 冷戦と世界経済		・集団防衛体制と核開発 ・米ソ両大国と平和共存 ・西ヨーロッパの経済復興 ・第三世界の連携と試練 ・55年体制の成立 ・日本の高度経済成長 ・核戦争の恐怖から軍縮へ ・冷戦構造のゆらぎ ・世界経済の転換 ・アジア諸地域の経済発展と市場開放 ・冷戦の終結と国際情勢 ・ソ連の崩壊と経済のグローバル化 ・開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・地域紛争の激化 ・国際社会のなかの日本 ・現代世界の諸課題 ・現代日本の諸課題	・核兵器開発に着目し、集団安全保障について考察する。 ・「雪解け」に着目し、冷戦構造の変化を考察する。 ・ヨーロッパの復興を理解し、地域統合について考察する。 ・第三世界に着目し、欧米植民地の変化を考察する。 ・55年体制を理解し、日米関係について考察する。 ・高度経済成長を理解し、日本社会の変化を考察する。 ・核軍縮の動きに着目し、「デタント」について考察する。 ・ベトナム戦争に着目し、冷戦構造の変化を考察する。 ・ニクソン=ショックを理解し、世界経済の転換を考察する。 ・ブラザ合意を理解し、日本のバブル経済を考察する。 ・東欧革命に着目し、冷戦の終結について考察する。 ・ベレストロイカを理解し、ソ連の改革と崩壊を考察する。 ・開発独裁を理解し、独裁体制について考察する。 ・湾岸戦争以降の紛争を理解し、テロリズムを考察する。 ・冷戦終結に着目し、現代日本社会の変容を考察する。 ・紛争とテロ、貧困と難民など、世界の諸課題を探究する。 ・エネルギー、少子高齢化など、日本の諸課題を探究する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
12		第IV回 考查範囲		第9章 グローバル化する 世界	16	・開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・地域紛争の激化 ・国際社会のなかの日本 ・現代世界の諸課題 ・現代日本の諸課題
1	新年度の準備					
2	新年度の準備					
3	新年度の準備					

2年 数学Ⅱ

○ 学習のねらい

これまでに学んだ数学をさらに深く学習するとともに、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

予習とは、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習時間がとれない場合でも、次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。それよりも、前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授業中～授業中の注意点～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもありますが、真の実力とはいえません。理解できた、という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく、先生の発言で大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授業後～復習～

授業で分からなかったところをそのままにしておく次の授業も当然分かりません。時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視してください。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評価の方法

考查は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考查の割合は70%程度を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	各章の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化して数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。
II 思考・判断・表現	数や式を多面的に見て等式や不等式が成り立つことや、図形の性質について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を的確に表現しその特徴を数学的に考察する力、問題を解決し解決の過程や結果を考察し判断する力を養っている。
III 主体的に取り組む態度	数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

評価の場面	考查		考查以外		
	①	②	③	④	⑤
	考查	小テスト	学習状況の観察	課題	自己評価
I 知識・技能	◎	○			
II 思考・判断・表現	◎	○		○	
III 主体的に取り組む態度			○	◎	○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

2年 数学B

○ 身に付けてもらいたい資質・能力

数列、統計的な推測について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。数学と社会生活の関係について認識を深め、事象を数学的に考察できるようになり、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用しようとする態度を身に付ける。

※進度によって学習内容を変更する場合があります。

○ 学習方法

1 授業の前(予習)

予習では、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。短い時間でも予習は行ってください。次の授業で進む分野に目を通しておくことを習慣づけてください。予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授業中(注意点)

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明とおりに問題を解いて正解となることもあります。それは真の実力ではありません。「理解できた」という実感をもつまで取り組んでください。

ノートのとり方も工夫が必要です。とりあえず「板書事項だけをノートに写しておこう」という人もいますが、それでは不十分です。大事なことはしっかりメモし、時間をおいて後から見ても自分が理解できるノート作りをしましょう。

3 授業後(復習)

授業で分からなかったところをそのままにしておくと、次の授業も当然分かりません。空いている時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。また、多くの問題を解くことも大事ですが質も重視する必要があります。進学を目指す人は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、後に大きな力となります。

○ 評価の方法

定期考査による評価は全体の70%程度を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
II 思考・判断・表現	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数理化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
III 主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の場面	考査	考査以外			
	①	②	③	④	⑤
	考査	小テスト	学習状況の観察	課題	自己評価
I 知識・技能	◎	○			
II 思考・判断・表現	◎	○		○	
III 主体的に取り組む態度			○	◎	○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学B	2年 選択	2	最新 数学B (数研出版)	新課程 3ROUND 数学B (数研出版)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	1章 数列 第1節 数列とその和	2	1 数列	数の並び方に興味を持ち、数列に関する用語、記号を適切に用いて、数列の定義、表記を理解し、数列の一般項から、各項を求めることができる。 等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係を考察し、公差や一般項を理解し、初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係を考察し、公比や一般項を理解し、初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 等比数列の考え方をもとにして、元利合計や積立預金の総額を求める式の意味を理解し、考察することができる。	A・B・C
			6	2 等差数列		
			5	3 等比数列		
			3	4 複利法と等比数列		
6			1	復習問題		
	考查		1			
7	第二 回 考 査 範 囲	第2節 漸化式と 数学的帰納法	5	5 和の記号Σ	記号Σの意味を理解し、Σで表された数列の和を項をかき並べて表したり、和の形をΣで表したりすることができる。 階差数列からもとの数列の項を求める仕組みを理解し、特定の項を求めることができる。	A・B・C
			2	6 階差数列		
			6	1 漸化式と一般項		
8			2	2 数学的帰納法	初項と漸化式を用いて数列が定義できることを理解し、漸化式で表現することができる。 数学的帰納法の仕組みを理解し、それを用いて等式を証明することができる。	A・B・C
9	考查		1	復習問題		
10	第三 回 考 査 範 囲	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	2	1 確率	確率の基本的な性質を理解し、基本的な場合について確率を求めることができる。 確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、求めることができる。また、それらを用いて確率変数の特徴を考察することができる。 二項分布の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 連続的な値をとる確率変数について理解し、その確率密度関数から確率を求めることができる。 一般の正規分布を標準正規分布へ変換する仕組みを理解し、それを用いて一般の正規分布を考察することができる。 二項分布が正規分布で近似できることを理解し、二項分布に従う確率変数について、正規分布で近似することで確率を求めることができる。	A・B・C
			6	2 確率変数と確率分布		
			4	3 二項分布		
			1	4 確率密度関数		
			4	5 正規分布		
			1	6 二項分布と正規分布		
	考查		2	復習問題		
12	第四 回 考 査 範 囲	第2節 統計的な推測	1	1 母集団と標本	統計的な推測について理解し、それらを仮説検定などを通して不確定な事象の考察に活用できる。 標本平均の期待値、標準偏差を、母平均、母標準偏差をもとにして求めることができる。 仮説検定の考え方を用いて、ある事柄についての仮説に対する判断をすることができる。	A・B・C
			4	2 母平均の推定		
			2	3 仮説検定		
1	第三 章 数 学 と 社 会 生 活	第1節 数学を用いた考察	2	1 ごみの量の推定	全体のごみの量を推定するのに、一部を仮定し、その仮定の値を利用することで求めることができる。 自転車シェアリングの仕組みを理解し、自転車の台数を求めていくことで、その台数がある数値に落ち着いていくことを実	A・B・C
			4	2 自転車シェアリング		
2	考查		1			
3		新年度の準備				

2年 音楽Ⅱ

○ 学習のねらい

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力の育成を目指す。音楽Ⅱでは、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるとともに、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるように、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。また、それぞれの分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）での取り組みに関して、自分でできること、歌うならば姿勢や声量など意識して取り組むようにしてください。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

2. 授業中～授業中の注意点～

- ① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
- ② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
- ③ 楽器を使う授業があります。楽器類は大切に扱うようすること。
- ④ 実技演奏もあります。授業で取り組んだ成果を出してください。
- ⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

3. 授業後～復習～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に生かしてください。「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評価の方法

考查は実施しません。実技練習等への取り組み状況、ワークシート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技評価が4割～6割、実技練習等への取り組み状況が2割～3割、ワークシート評価が2割～3割となります。

観点ごとのポイント					
I 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを深く理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けようとしている。				
II 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりについて考え、個性豊かな音楽表現をすることや音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。				
III 主体的に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
評価の場面	①	②	③	④	⑤
	学習状況観察	ワークシート	小テスト	レポート	実技テスト
I 知識・技能		◎	◎	○	◎
II 思考・判断・表現	○	◎	○	◎	◎
III 主体的に取り組む態度	◎	◎			○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
芸術	音楽Ⅱ	2年 選択	2	MOUSA2 教育芸術社	なし	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	①ギターの演奏法を覚えよう (1) ①-1 「かっこう」	9	①音楽Ⅰで取り組んだ演奏法を発展させ、コード演奏に取り組む。 ②旋律に沿って、伴奏する(コード演奏)の楽しさを学ぶ。	①コードを覚える。 ②アンサンブルや弾き語りの楽しさを味わう。	A・B・C
		②ポピュラー音楽を楽しもう ②-1 歌唱「糸」 ②-2 歌唱 「One more time, One more chance」	8			
6	考査		なし			
7	第二回 考査範囲	③ミュージカルの音楽を演奏しよう ③-1 「ウエストサイドストーリー」鑑賞 ③-2 歌唱「トゥナイト」 ③-3 リコーダー「トゥナイト」	17	①英語の発音に気をつけながら、曲の持つ雰囲気に合わせて歌う。 ②リコーダーの演奏法を理解し、意欲的に演奏する。 ③ミュージカルの内容にあわせ、表現豊かに演奏する。	①英語の発音に気をつけながら歌うようにする。 ②リコーダーの演奏法について覚える。 ③表現豊かな歌唱と演奏に興味関心を持つ。	A・B・C
		8	考査			
10	第三回 考査範囲	④ギターの演奏法を覚えよう (2) ④-1 「愛のロマンス」	9	①これまでのギターの基礎的な奏法の修得を踏まえて、工夫しながら演奏する楽しさを味わう。 ②それぞれの音楽を形づくっている要素の共通点や相違点を考えながら鑑賞する。	①アルペジオ奏法の技能を身につけ、創造的に演奏する。 ②表現したいイメージにあった音階を選び、音楽構成などを考えるために必要な創作の技能を身に付ける。	A・B・C
		⑤音階を選んで旋律をつくろう ⑤-1 五音音階による旋律の創作	9			
12	考査		なし			
1	第四回 考査範囲	⑥音楽の要素に着目して聴き比べよう ⑥-1 リコーダー『四季より「冬」』 ⑥-2 『四季より「冬」』鑑賞 ⑥-3 「ブエノスアイレスの冬」鑑賞	9	①リコーダーの演奏法を理解し、工夫しながら演奏する楽しさを味わう。 ②それぞれの音楽を形づくっている要素の共通点や相違点を考えながら鑑賞する。	①表現したいイメージにあった音色や音型を思考して、創造的に演奏する。 ②音楽を形づくっている要素の共通点や相違点について話し合い、それぞれの曲の良さを感じながら鑑賞する。	A・B・C
		⑦ミュージカルを楽しもう ⑦-1 「オペラ座の怪人」鑑賞 ⑦-2 歌唱「All I Ask of You」	9			
3	考査		なし			
		新年度に向けて				

2年 美術Ⅱ

○ 学習のねらい

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

- ・教科書等の予習は必要ありませんが、自然や生活の中の造形的美しさを感じ取ったり、優れた絵画や映像、デザインに触れる機会を積極的に持つ等、日頃から自己の感性を磨くことを薦めます。また、課題の前に関連する分野を様々な媒体を使って自分で調べてみることもアイデアを出すヒントとなります。
- ・筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁です。

2 授業中～授業中の注意点～

- ・授業では美術Ⅰの経験を基礎に、新たな表現活動や鑑賞活動に取り組んでいきます。美術Ⅰ同様、常に“主体的に”集中して授業に臨み、完成までの見通しを持って課題に取り組んでいって下さい。また、用具の手入れや後片付け、身の回りの清掃等は声掛けがなくともしっかり行ってください。夏場等の指示された時以外は飲食物の持ち込みは禁止となります。

3 授業後～復習～

- ・各課題で、各自の意図や意欲をみる「コンセプト記入用紙／自己評価(振り返り)」の記入があります。出来上がった作品の完成度だけでなく、どれだけ考えて(意図を持って)制作したかということも作者の制作過程を見る上で重要なことと考えています。

○ 評価の方法

- ・各期の課題(提出作品、アイデアスケッチ・下図・鑑賞等のワークシート、小テスト、コンセプト用紙/自己評価等)と授業への取り組み(課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等)を100点満点で評価する。

評価の観点								
I 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表そうとしている。							
II 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしようとしている。							
III 主体的に取り組む態度	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造しようとしている。							
評価の場面	課題						授業への取り組み	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	作品	アイデア スケッチ・ 下図	鑑賞 課題	小テスト	コンセプ ト用紙	自己 評価等	準備・ 片付け	学習状況 の観察
I 知識・技能	◎	◎	○	◎	○			○
II 思考・判断・表現	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎
III 主体的に取り組む態度	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
美術	美術Ⅱ	2年 選択	2	高校生の美術2 (日本文教出版)	なし	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった
4	第一回 考查範囲	ガイダンス	1	年間計画説明/美術の見方	<ul style="list-style-type: none"> 美術の各分野に対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 教科書や映像の作品について、深く考察し、その良さや美しさについて自分の言葉で論述する。 対象をよく観察し、ものの比率や形態感を適切な構図で捉える。 明暗による立体感、空間感の表現を工夫し、実感を伴う素描表現を身に付ける。 	A・B・C
		静物デッサン	5	日本画制作の下図となる静物のモチーフを線と明暗で表す。		A・B・C
		5	13	箔の特徴や表現効果を理解する。静物デッサンを基に箔を押しした画面に静物画を描く。		A・B・C
6	6	「日本画で描く」	13	<ul style="list-style-type: none"> 日本の美術、箔の技法 骨描き/箔押し/彩色について 	<ul style="list-style-type: none"> 日本美術の特徴やその良さを理解し、箔の技法を各自の意図に応じて効果的に用いる。 静物デッサンの線や明暗を骨描きの線や墨の濃淡に生かしながら、実感がともなう下描きを描く。 背景の箔と日本画絵具の調和を考えながら、彩色を施す。 制作意図等をコンセプト用紙に明確に記述する。 	A・B・C
7	第二回 考查範囲	版画 「イメージ構成」	12	<ul style="list-style-type: none"> モチーフから感じ取ったことから主題を生成し、銅版画の特性を生かして画面を構成する。 図や言葉によるイメージの連想 材料や用具の特性と扱い方 制作意図のプレゼンテーション、鑑賞における観察・論述について 	<ul style="list-style-type: none"> 各自の意図に基づき、画面構成や構図、明暗のバランス等をアイデアスケッチ等で十分検討する。 ニードルでの凹版や腐食、印刷方法を理解し、線の密度やタッチ等、表現方法を工夫し、絵画的な画面に仕上げる。 制作意図や工夫点等の詳細をコンセプト用紙に明確に記述する。 他者の作品を鑑賞し、作品の良さや造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。 	A・B・C
8	8	グラフィックデザイン	4	<ul style="list-style-type: none"> デザインの目的や機能、条件と造形的な美しさとの調和を考え、形態の構成や色彩等の造形要素の働きを加味しながら創造的にデザインする。 デザイン鑑賞/色彩学/構成プロセスについて 	<ul style="list-style-type: none"> 日本や諸外国の優れたデザインを鑑賞し、デザインの役割や論理性を理解する。 造形性や象徴性、可読性に配慮し、デザインを構想する。 	A・B・C
9	9	① アイディアスケッチ	4	なし	なし	A・B・C
10	第三回 考查範囲	② 描画ソフト演習	5	<ul style="list-style-type: none"> 描画ソフトの技法演習 	<ul style="list-style-type: none"> 描画ソフトの技法を理解し、演習課題を正確に丁寧に仕上げる。 	A・B・C
11	11	③ デザイン制作	12	<ul style="list-style-type: none"> 描画ソフトの演習技法を応用し、各自のデザインをコンピューターで制作、コンセプト用紙によるプレゼンテーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 描画ソフトの技法を応用しながら、各自の意図に基づき、可読性に配慮した形態と配色、仕上げの美しさを追求する。 コンセプト用紙に制作意図を詳細に、分かりやすく記述する。 	A・B・C
12	12	クラフトデザイン 木工制作	16	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な道具の制作を通して、素材を生かし、機能性と美しさを兼ね備えた「用の美」の追求を目指す。 用途の設定、使用者の想定 材料や用具の特性と扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> 機能美に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 意図に応じて材料や用具を効果的に使用し、実際の使用感や強度などを加味し、仕上げの美しさを追求する。 コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 道具の扱いに注意し、片付けをしっかりと行う等、安全で計画的な制作態度を養う。 	A・B・C
1	1	鑑賞	2	<ul style="list-style-type: none"> 対話による美術鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品の造形的な良さを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考察を深める。 	A・B・C
2	2	新年度の準備	なし	なし	なし	
3	3	新年度の準備	なし	なし	なし	

2年化学基礎

○ 学習のねらい

- ・ 物質の基本的な単位である原子や分子、化学反応やその量的関係について、科学的な見方・考え方を働かせ、科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。さらに、実験を通して化学反応等の現象を科学的にとらえる力、個人の技能および集団における作業を行う能力を養う。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・ まずは教科書を読みましょう。そして、分からないところに下線やマーキングをするなど、授業における理解が必要なところを明らかにしましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・ 授業は講義形式で行います。疑問点をそのままにしておくと、理解出来ないまま授業が進んでいきますので、分からない箇所こそ積極的に発言すること。
- ・ 先生の話を中心してよく聴く。そして、板書を写すだけに留まらず、メモを取ったり重要箇所に下線を引いたりすること。参考資料や教科書のページをメモしておくことで後で調べるときに時間短縮になります。
- ・ 実験や観察で火気および危険な薬品を多く扱います。白衣を忘れず、指示を聞き従うこと。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・ 教科書や問題集の問題を解き、知識を確実なものとしましょう。徐々に知識量が増えていくとその関連性が重要になります。既習の学習箇所を絶えず振り返り、理解に努めてください。

※ 化学は暗記科目ではありません。従って試験も覚えたから解ける問題ばかりではなく、本質を理解していることが大切になります。試験直前だけに集中して学習するよりも、毎日短時間でよいので、予習、復習を心掛けましょう。(特に復習に重きを置くこと)

※ 日々の生活の中で家の手伝いを行い、また新聞やTVのニュースなどに関心を持ちましょう。食品、洗剤、日用品、環境や健康問題について科学的に取り上げた授業を展開することがあります。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%を原則とする。

観点ごとのポイント							
I 知識・技能	自然の事物・現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本的な技能を身に付けている。						
II 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、実験などを駆使して科学的に考察し、またそれを表現することができる。						
III 主体的に取り組む態度	自然の事物・現象に対して、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。						
評価の場面	考査	考査以外					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	考査	小テスト	学習状況の観察	実験レポート	課題	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎		○	○		
II 思考・判断・表現	○	○		◎	○		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	化学基礎	2年	2	高校 化学基礎 visual (実教出版)	高校 化学基礎 visual エブリノート (実教出版)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回考査範囲	序章 化学と人間生活	1	・「化学」とは何かを学ぶ。生活の中で起こる身近な疑問を化学的に解決するための考え方を学ぶ。	・化学の探究に必要な課題の発見から解決方法について、テーマ設定、実験の計画・実施、レポート作成、発表という探究の進め方を身に付ける。	A・B・C
5		1章 物質の構成 1節 物質の構成	5	・多種多様な物質を観察することによって、それらを整理・分類する。共通した要素や、個々の相違点を調べることによって、物質の成りたちを追求する。	・物質が種々の元素から成りたっていることを理解する。 ・物質の状態と熱運動の関係を理解する。	A・B・C A・B・C
6		2節 物質の構成粒子	5	・物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンや原子が種々の方法で結合した物質について、その構造や表し方、それらの関係を学ぶ。	・原子の電子配置と価電子の意味を理解する。 ・元素の周期律と、周期表の特徴を理解する。	A・B・C A・B・C
6	第二回考査範囲	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 2節 共有結合 3節 金属結合	5	・物質が連続性を持たない小さな粒子からなり、どのようなしくみで結合しているかを学ぶとともに、物質の性質との関連も理解する。	・さまざまな化学結合について理解し、それらの結合によってできている物質の性質についても学ぶ。	A・B・C
7		考査	1			
8		3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式	16	・物質の質量と、物質を構成する原子・分子・イオンなどの質量や数との関係や、気体についてはさらに体積との関係を学び、化学の学習に欠かすことのできない物質量の考え方を身につける。	・原子量の概念を理解し、分子量や式量の定義を学ぶ。 ・物質量の概念を学び、気体の体積との関係を理解する。 ・濃度の定義について学び、扱いに慣れる。 ・化学反応式が表す量的関係を把握できるようになる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
9	考査	1				
10	第三回考査範囲	2節 酸と塩基の反応	16	・酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液が必ずしも中性でないことにも触れる。	・酸・塩基の定義を学び、水素イオンとの関係を理解する。 ・水溶液の酸性や塩基性の強さを表す方法を理解する。 ・酸と塩基の中和反応について理解する。 ・中和反応における量的関係について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		考査	1			
12	第四回考査範囲	3節 酸化還元反応	16	・電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。	・電子の授受による酸化・還元を定義を理解する。 ・酸化剤や還元剤のはたらきと、化学変化を理解する。 ・金属のイオン化傾向と金属単体の化学的性質の関係を理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
1		2	2	・化学が食品保存、化粧品、浄水場といったさまざまな場面の技術と結びついていることを学習する。	・化学基礎で学んだ物質の特徴や化学変化が、様々な技術と結びついていることを学び、化学基礎で学んだ内容への理解をさらに深める。	A・B・C
3	考査	1				
3		新年度準備				

2年物理基礎

○ 学習のねらい

自然の中には、不思議なことやきれいな現象がいくつもある。そのさまざまな現象について、どうしてそうなるのか知りたいと思ったことはないだろうか。重いものと軽いものが同時に落下するって本当だろうか。だるま落としを上手にやるにはどうすればよいだろうか。救急車のサイレンはなぜ近づいたり、遠ざかったりする度に聞こえ方が違うのだろうか。ものの温度はどうやって決まるのだろうか。宇宙は真空というけれど、地球上とはどう異なるのだろうか。こんなふうに、私たちの身の回りには、知りたいと思うことが数え切れないほどあるはずだ。

物理基礎ではこのような事象・現象について、観察、実験を行いながら学習する。学習していく中で、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に物事を考えることができるようになることがこの科目のねらいである。

主な学習内容は、運動とエネルギー（運動の表し方、運動の法則、仕事と力学的エネルギー）、熱（熱とエネルギー）、波（波の性質、音）、電気（物質と電気抵抗、磁場と交流）、エネルギーの利用である。放射性物質や放射線の測定についても学習する。

これらについて基本的な概念や法則を理解し、日常生活と関連付けて考える力を身に付けてほしい。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

事前に教科書を読み、授業で学習するところを確認しておく。記号の意味、速度や力などの物理量の単位など、基本的なことは覚えておく。

2 授業中～授業中の注意点～

先生の話は集中して聞く。疑問に思った点、理解できないところは恥ずかしがらずに積極的に質問する。

3 授業後～復習～

教科書や問題集の練習問題を何度も繰り返しやってみる。さらに課題がほしいときは先生までもらいにいく。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	自然の事象・現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本的な技能を身に付けている。							
II 思考・判断・表現	自然の事象・現象の中に問題を見だし、実験などを通して、科学的に考察し表現することができる。							
III 主体的に取り組む態度	自然の事象・現象に対して、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	小テスト	学習状況の観察	実験レポート	課題	授業での発言	自己評価	
I 知識・技能	◎	◎		○				
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○	
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○	

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	物理基礎	2年 選択	2	i版 物理基礎 (啓林館)	改訂版 リードLight 物理基礎 (数研出版)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 <small>※どのような内容を学ぶのか</small>	到達目標 <small>※どのようなことを身に付けるのか</small>	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった	
4	第一回 考查範囲	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 ①速度 ②加速度 ③落体の運動	3 3 4	・物体の運動の表し方 ・速さと速度の違い ・合成速度、相対速度、v-tグラフ ・直線運動の加速度 ・自由落下運動、鉛直放射、放物運動 ・重力加速度の測定実験	・物体の運動の表し方について、距離、時間、速度の測定と分析の方法を理解する。 ・物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。 ・物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動の関係について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C	
		第2章 運動の法則 ①力とそのはたらき ②力のつりあい	3 4	・様々な力とその働き ・力のつりあい、力の合成、力の分解 ・抗力、摩擦力 ・弾性力、静電気力と磁気力 ・作用と反作用	・アトウッド器械の工夫を通して、重力加速度をできる限り正確に測定する方法を探究する学習に取り組む。 ・物体に様々な力が働くことを理解する。 ・物体に働く力のつり合い、作用と反作用について理解する。	A・B・C A・B・C	
5	第二回 考查範囲	③運動の法則 ④摩擦を受ける運動 ⑤液体や気体から受ける力	5 2	・慣性の法則、運動の法則、運動方程式 ・静止摩擦力、動摩擦力 ・大気圧と水圧 ・浮力、アルキメデスの原理、空気抵抗	・運動方程式の立て方と解き方を理解する。 ・摩擦を受けたときの運動について理解する。 ・大気圧や水圧の求め方及び浮力の求め方について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C	
6		第3章 仕事と 力学的エネルギー ①仕事 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存	2 2 2 3	・仕事の定義、仕事の原理 ・運動エネルギーと仕事の関係 ・重力による位置エネルギーと 弾性力による位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則 ・つる巻きばねの振動実験	・運動エネルギーと位置エネルギーについて、 仕事と関連付けて理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連 付けて理解する。 ・縦置き型のつる巻きばねを振動させ、振動時間を 長くする方法を探究する学習に取り組む。	A・B・C A・B・C A・B・C	
7		考查	1				
8		第3回 考查範囲	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー ①熱と物質の状態 ②熱と仕事	4 4	・温度と熱量、熱容量と比熱 ・物質の三態 ・熱と仕事、内部エネルギー ・不可逆変化と熱機関	・熱と温度について、原子や分子の熱運動とい う視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解 する。	A・B・C A・B・C
9		第4回 考查範囲	第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音	4 4	・波の要素、横波と縦波、単振動 ・重ね合わせの原理、反射と屈折 ・音の三要素、弦の振動、気柱の振動	・波の性質について、直線上を伝わる場合を 中心に理解する。 ・気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解 する。	A・B・C A・B・C
10	第5回 考查範囲	第4編 電気 第1章 物質と電気 ①電気の性質 ②電流と電気抵抗 ③電気とエネルギー	3 4 3	・静電気、電荷、帯電のしくみ ・電気回路、オームの法則 ・抵抗の接続 ・ジュール熱、電力	・電気の基本的な性質と電気を運ぶしくみに ついて理解する。 ・合成抵抗を求めることができる。 ・電流がする仕事について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C	
11	第6回 考查範囲	第2章 磁場と交流 ①電流と磁場 ②交流と電磁波	3 3	・磁気力と磁場 ・電流のつくる磁場、電磁誘導 ・交流と直流、電磁波	・電流と磁場との関係、電磁誘導について理解 する。 ・交流の発生、送電及び利用について、基本的 なしくみを理解する。	A・B・C A・B・C	
12		第5編 物理学と社会	1	・エネルギーの利用 ・放射線	・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太 陽光などを源とするエネルギーの特性や利用な どについて理解する。	A・B・C	
1	第7回 考查範囲	第4編 電気 第1章 物質と電気 ①電気の性質 ②電流と電気抵抗 ③電気とエネルギー	3 4 3	・静電気、電荷、帯電のしくみ ・電気回路、オームの法則 ・抵抗の接続 ・ジュール熱、電力	・電気の基本的な性質と電気を運ぶしくみに ついて理解する。 ・合成抵抗を求めることができる。 ・電流がする仕事について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C	
2	第8回 考查範囲	第2章 磁場と交流 ①電流と磁場 ②交流と電磁波	3 3	・磁気力と磁場 ・電流のつくる磁場、電磁誘導 ・交流と直流、電磁波	・電流と磁場との関係、電磁誘導について理解 する。 ・交流の発生、送電及び利用について、基本的 なしくみを理解する。	A・B・C A・B・C	
3		第5編 物理学と社会	1	・エネルギーの利用 ・放射線	・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太 陽光などを源とするエネルギーの特性や利用な どについて理解する。	A・B・C	
3		新年度の準備					

2年地学基礎

○ 学習のねらい

地球には、大気や海、そして、火山や地震などさまざまな自然があります。また、その地球が存在している空間が宇宙です。その宇宙や地球の自然の成り立ちを扱います。その他には、宇宙や地球、生物の進化の歴史、それから、今後、地球はどのように変化するのかということについても予想し、考えます。地学では、以上の地学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育てることをねらいとします。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

授業前の準備として重要なのは、授業に積極的に参加しようとする心構えです。地学は自然科学の中でも仮説(予想)を立て、それを検証(確かめる)することで発展してきた科目です。地学現象をよく理解するためには、自分なりの考えをもって授業に臨むことがとても大切になります。

2 授業中～授業中の注意点～

授業中は私語厳禁です。ただし、質問はいつでもして下さい。自分なりの考えや予想を訪ねられたときは、しっかり答えて下さい。また、授業中に他の教科の課題やノートの写しなどをするはいけません。

3 授業後～復習～

授業後は授業で使用した教科書・ノート・資料集・問題集などしっかりと管理し、授業を受けたままにはしないことを勧めます。地学用語については定期考査に出題することになります。テスト前に時間を確保して、しっかり復習して理解して下さい。

○ 評価の方法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	自然の事物・現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本的な技能を身に付けている。							
II 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、実験などを通して、科学的に考察し表現することができる。							
III 主体的に取り組む態度	自然の事物・現象に対して、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	小テスト	学習状況の観察	実験レポート	課題	ロイロノート	自己評価	
I 知識・技能	◎	◎		○				
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○	
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○	

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	地学基礎	2年 選択	2	改訂版高等学校 地学基礎 (数研出版)	高等学校 地学基礎 サポートノート 三訂版 ニューステージ地学図表(浜島書店)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 (どのようなことを身に付けたいか)	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第1節 地球の概観	4	地球の形と大きさ	・地球の形状について、測量の歴史を概観しながら理解する。	A・B・C
5		第2節 地球の内部構造	4	地球の構造	・地球内部の層構造と、層の特徴を理解する。また、層構造形成の過程も理解する。	A・B・C
6		第2章 活動する地球 第1節 プレートテクトニクスと地球の活動	6	プレートテクトニクス	・プレートの運動と地表面が関連することを学び、地学現象をプレートの運動と結びつけて理解する。	A・B・C
		第2節 地震	3	地震	・変成岩について理解する。 ・世界の地震の分布を理解するとともに、地震波の性質と観測方法を理解する。	A・B・C A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	第3節 火山活動と火成岩の形成	4	火山活動	・世界の火山の分布を理解し、マグマの性質と噴火様式、形成される岩石の関係も理解する。	A・B・C
8		第2部 大気と海洋 第1章 大気の大気構造	5	大気の大気構造と水と気象の関係	・大気圏について理解し、水と気象の関係を学ぶ。	A・B・C
8		第2章 太陽放射と大気・海水の運動	5	地球全体の熱収支 大気の大循環と海水の運動	・地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について理解する。	A・B・C
9		第3章 日本の天気	2	日本で見られる季節変化	・日本列島の地形やその特徴について、気候と結びつけて理解する。	A・B・C
	考査		1			
10	第三回 考査範囲	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第1節 宇宙の誕生	4	宇宙の始まりと恒星の進化	・宇宙の誕生と恒星の進化について理解する。	A・B・C
11		第2節 太陽系の誕生	4	太陽系の始まり	・太陽系の誕生と太陽系の天体について理解する。	A・B・C
		第2章 地球と生命の進化	6	生物の発生と環境の変化	・先カンブリア時代に起こった地球の大気変化と、生命の発生や進化の関係を理解する。	A・B・C
				3	古生物の進化と絶滅	・顕生代に起こった生命の進化と絶滅を理解する。
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	第3章 地球史の読み方	3	堆積作用と堆積岩 地層の形成	・堆積岩の成り方と地層の重なりが、時間経過を示していることを理解する。	A・B・C
1			2	地質時代の区分と化石	・地質構造の変形から、過去に起こった地殻変動を予測できることを理解する。	A・B・C
2		第4部 自然との共生	8	地球環境に及ぼす人間活動の影響	・人間が環境に与える影響を理解し、共存していく方法を考える。	A・B・C
	考査		1			
3		新年度の準備				

2年 体育(男子)

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

1 授業前 ～ 予習 ～

- ・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。

2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～

- ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。

・運動の技能、知識

- ① 技能の習得
- ② 実技等の各種テスト
- ③ ゲーム等での評価(動き)
- ④ 単元の知識 ※練習やテスト、授業の中で確認(知識が活かされた動き)を行う。
(必要に応じて筆記テストの実施)

⑤ 各時間での取組み状況

・思考・判断・表現

- ① 課題の把握(自己やチーム)
- ② 課題に向けた取り組みや分析(思考)
- ③ ①②の内容の他者への伝達(必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施)

・主体的に学習に取り組む態度

- ①主体的に取り組もうとする態度(活動の様子、活動量、自己の体調の把握)
- ②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
- ③病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することがある。

※評価の観点は以下のとおり。記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

観 点	評価項目	学習 状態 の 観 察	実技 ス キ ル	実技 テ ス ト	各種テスト レポート 提出物 上記に 準ずる物
I 知識・技能	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。 運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身に付けている。	○	◎	◎	◎
II 思考・判断・表現	自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。	◎	◎	○	◎
III 主体的に 取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。	◎	○	○	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	2学年 男子	2	新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	1 4	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトル ラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の 測定について 各種目ごとにルール等の説明を聞く	授業内容や評価方法について理解する。 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校 生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見 つける。 各種目ごとに、どのような仕組みで運動がおこなわれ るか理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
5		陸上競技	5	短距離走、長距離走	中間走で高いスピードを維持して走る技術やペースの 変化に応じて走る技術を身に付ける。	A・B・C
6		フットサル中級 (体育理論を含む)	15	パス、ドリブル、シュートの技術向上について	個人だけではなくチームでの技術向上を目指し、ゲームが できるようにする。	A・B・C
7	第二 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	15	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこな われるか理解する。	A・B・C A・B・C
8		ソフトテニス初級 (気温に応じて卓球)		色んなボールの打ち方について (卓球の技術練習)	ゲームをするときの打ち方の使い分けや動き方を身に 付ける。(レシーブの方法やラリーの続け方、バックハンドの 活用の仕方について)	A・B・C
10		体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこな われるか理解する。	A・B・C A・B・C
11	第三 回 考 査 範 囲	バレーボール中級 (体育理論を含む)	15	レシーブやスパイク、三段攻撃について	個人の技術だけではなく協力して三段攻撃などができ るようにする。	A・B・C
12		体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	11	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこな われるか理解する。	A・B・C A・B・C
1	第四 回 考 査 範 囲	バスケットボール中級 (体育理論を含む)		基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解。ドリブル・パス・シュート等の基本の技術 をゲームへとつなげることができる。	A・B・C
2		ニュースポーツ	4	各種目の基本技術の習得とルールの理解 について	興味のある種目を選択し、身体の様々な部位を動かす ことができる。	A・B・C
3	考 査	新年度の準備				

2年 体育(女子)

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

1 授業前 ～ 予習 ～

・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。

2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～

- ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。

・運動の技能、知識

- ① 技能の習得
- ② 実技等の各種テスト
- ③ ゲーム等での評価(動き)
- ④ 単元の知識 ※練習やテスト、授業の中で確認(知識が活かされた動き)を行う。
(必要に応じて筆記テストの実施)

⑤ 各時間での取組み状況

・思考・判断・表現

- ① 課題の把握(自己やチーム)
- ② 課題に向けた取り組みや分析(思考)
- ③ ①②の内容の他者への伝達(必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施)

・主体的に学習に取り組む態度

- ① 主体的に取り組もうとする態度(活動の様子、活動量、自己の体調の把握)
- ② 準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
- ③ 病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することがある。

※評価の観点は以下のとおり。記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

観 点	評 価 項 目	学 習 状 態 の 観 察	実 技 ス キ ル	実 技 テ ス ト	各 種 テ ス ト レ ポ ー ト 提 出 物 上 記 に 準 ず る 物
I 知識・技能	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。 運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身に付けている。	○	◎	◎	◎
II 思考・判断・表現	自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。	◎	◎	○	◎
III 主体的に 取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。	◎	○	○	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	2学年 女子	2	新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	1 4	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトル ラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の 測定について 各種目ごとにルール等の説明を聞く	授業内容や評価方法について理解する。 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校 生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見 つける。 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか 理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
5		陸上競技 ソフトテニス初級 (体育理論を含む)	5 10	短距離走、長距離走 色々なボールの打ち方について	中間走で高いスピードを維持して走る技術やペースの変 化に応じて走る技術を身に付ける。 ゲームをするときの打ち方の使い分けや動き方を身に付 ける。	A・B・C A・B・C
6		考 査				
7	第二 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	20	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわ れるか理解する。	A・B・C A・B・C
8		フットサル初級 (体育理論を含む)		基本技術の習得とルールの理解について	パス・シュート・ディフェンスなどの基本的な動き方がで きる。また、連携した動きができるようになる。 ※ボールの蹴り方からパスの連携 ・パス連携からのシュート ・シュートからのディフェンス	A・B・C
9		考 査				
10	第三 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	15	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわ れるか理解する。	A・B・C A・B・C
11		バレーボール中級 (体育理論を含む)		レシーブやスパイク、三段攻撃について	個人のスキルだけではなく協力して三段攻撃などができる ようになる。	A・B・C
12	第四 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	11	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわ れるか理解する。	A・B・C A・B・C
1		バスケットボール中級 (体育理論を含む)		基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解。ドリブル・パス・シュートなどの基本技術を ゲームへとつなげることができる。	A・B・C
2		ニュースポーツ		4	各種目の基本技術の習得とルールの理解 について	興味のある種目を選択し、身体の様々な部位を動かすこ とができる。
3	考 査					
3		新年度の準備				

2年 保健

○ 学習の目的とねらい

- 1 個人としてだけでなく、社会の一員として総合的に社会生活について理解することができる。
- 2 健康・安全に関する自他や社会の課題を発見し、解決方法を目的や状況に応じて伝えることができる。
- 3 自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりをするための態度を養うことができる。

○ 学習方法と授業の留意点

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・事前に教科書を読み、内容を把握すること。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・教科書、保健ノートと授業で配布される教材プリント(必要に応じて)を比較・確認しながらその要点を捉えること。
- ・授業において実生活(現状)を理解し、自分の考えを他者に伝えることができる。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・プリント・ノートへの記入漏れなどがいないか確認する。

○ 評価の方法(定期考査と観点別)

- ・定期考査は第2回・第4回の計2回行う。
- ・下記の観点に基づいて100点満点で行う。

※評価の観点は以下のとおり。※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

観 点	評価項目	学習状態 の観察	提出物 (ノートやレポート または、それに 準ずる物)	定期考査
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。			
I 知識・技能	現代社会と健康の各分野について、個人や社会的な対策が必要であることを理解している。 安全な社会づくりのために、必要な事項を理解している。 応急手当について理解し、適切に行う技能を身に付けている。	○	◎	◎
II 思考・判断・表現	現代社会と健康・安全な社会生活について、各分野における原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えるとともに表現している。	○	◎	◎
III 主体的に 取り組む態度	現代社会と健康・安全な社会生活の各分野について、学習に主体的に取り組もうとしている。	◎	◎	

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健体育	保健	2年 全クラス	1	新高等保健体育 (大修館書店)	最新高等保健体育ノート (大修館書店)	35

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4		オリエンテーション	1	1年間の予定授業の進め方等を聞く。	1年間の流れと評価(考査2回など)を理解する。	A・B・C
		生涯を通じる健康	2	思春期における心身の発達と健康課題について	心身の発達や性的成熟について理解する。	A・B・C
5	第二回 考査 範囲	1. 思春期と健康	2	思春期の性意識、性行動について	性意識の男女差や個人差、性情報の正しい扱い方について理解する。	A・B・C
		2. 性意識の変化と性行動の選択	1	健康な結婚生活について	結婚生活と健康との関係について理解する。	A・B・C
		3. 結婚生活と健康	2	受精・妊娠・出産について	受精・妊娠・出産の過程と健康課題について理解する。	A・B・C
6		4. 妊娠・出産と健康	2	避妊方法の選択と人工妊娠中絶について	確実な避妊方法と正しい選択の仕方、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について理解する。	A・B・C
		5. 家族計画	2			
7	第二回 考査 範囲	6. 加齢と健康	1	中高年期の健康な生活について	加齢に伴う心身の変化や高齢期の健康課題について理解する。	A・B・C
		7. 高齢社会に対応した取り組み	1	高齢社会の健康課題について	高齢社会の現状と社会の取り組みについて理解する。	A・B・C
8		8. 働くことと健康	2	働く人における健康問題の現状について	働き方の変化に伴う健康問題の現状を理解する。	A・B・C
		9. 労働災害の防止	1	労働災害の要因や防止について	労働災害の推移や防止の対策について理解する。	A・B・C
9	考査	10. 働く人の健康づくり	1	働く人の健康の保持・増進活動について	職場における健康の保持増進活動やワークライフバランスの確立が働く人の健康に影響することを理解する。	A・B・C
			1			
10	第三回 考査 範囲	健康を支える環境づくり	1	大気汚染について	大気汚染の原因や健康被害、その対策を理解する。	A・B・C
		1. 大気汚染と健康	2	水質汚濁・土壌汚染について	水や土壌の汚染原因や健康被害、その対策を理解する。	A・B・C
11		2. 水質汚濁・土壌汚染と健康	2	環境汚染の防止とその対策について	環境汚染の防止と対策や産業廃棄物の問題について理解する。	A・B・C
		3. 環境被害を防ぐための環境対策	2	上下水道やごみ処理について	上下水道のそれぞれの役割や課題を理解する。廃棄物の適切な処理と循環型社会への転換について理解する。	A・B・C
		4. 環境衛生に関わる活動	1	食品の安全確保の方法について	食品の安全性と課題について理解する。	A・B・C
		5. 食品の安全性と健康	2	食品の安全性確保における役割について	食品の安全性を確保するために必要な役割を、行政・生産者・製造者・消費者それぞれの立場から理解する。	A・B・C
12	第四回 考査 範囲	7. 保健制度とその活用	2	保健行政と保健サービスについて	保健行政の仕組み、保健サービスについて理解する	A・B・C
		8. 医療制度とその活用	2	医療制度と医療保険、医療機関の役割について	医療保険の仕組みや医療サービスの活用について理解する。	A・B・C
1		9. 医薬品の制度とその活用	1	医薬品の種類や使用について	医薬品の安全性を高める方法について理解する。	A・B・C
		10. 様々な保健活動や対策	1	保健活動について	民間機関・国際機関などの保健活動や対策について理解する。	A・B・C
2	考査	11. 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	1	健康を支える環境づくりの重要性について	自他の健康の保持増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。	A・B・C
			1			
3		新年度への準備				

2年 英語コミュニケーションⅡ

○ 学習のねらい

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域(聞くこと・読むこと・話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くこと)において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

ベーシックノートを使用して、各レッスンの新出単語の意味を調べる。辞書を十分に活用する。

発音に注意し、できるだけ多く音読練習をする。

2 授業中～授業中の注意点～

教科書・ベーシックノート・授業用ハンドアウト・辞書を用いて授業を行うことが中心になる。各レッスンのストーリーがどのように展開されていくのか、段落ごとの関係性を把握しながら読む。単語帳に関連したペーパーテスト及び教科書の学習内容に準じたパフォーマンステストを実施する。

3 授業後～復習～

授業で使用したベーシックノートや授業用ハンドアウトの内容を復習する。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

観点ごとのポイント									
I 知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。								
II 思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図・概要・要点・詳細を捉えている。								
III 主体的に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で書かれたことを聞き、読み、書き、話そうとしている。								
評価の場面	考査	考査以外							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
	考査	教科書に関わる小テスト	課題提出	課題テスト	言語活動に取り組む姿勢	パフォーマンステスト1	パフォーマンステスト2		
I 知識・技能	◎	◎		○		○	○		
II 思考・判断・表現	○	○			○	○	○		
III 主体的に取り組む態度			○		◎	◎	◎		

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	英語コミュニケーションⅡ	2年全クラス	4	COMET English Communication Ⅱ (数研出版)	・COMET English Communication Ⅱ ベーシックノート(数研出版) ・改訂版Follow Up英文法基本ドリル(数研出版)	140

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	Lesson 1 Places Worth Visiting	10	ダイキとエラが互いが訪れた場所(屋久島とカッパドキア)についてメールで紹介する	・ダイキとエラの旅先での体験について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<wantなど+(人)+to-不定詞>の構造や用法を理解する。 ・行ってみたい場所について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer	12	動物写真家 岩合光昭さんが、撮影において重要だと気づいたことや撮影のコツを語る	・岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<疑問詞+to-不定詞>の構造や用法を理解する。 ・好きな写真について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
5	第二回 考查範囲	Lesson 3 The Haka	13	ニュージーランドからの留学生マイアが、マオリ族の伝統舞踊「ハカ」について発表する	・ハカについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<分詞>の構造や用法を理解する。 ・興味のある世界の文化について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 4 Digital Detox	11	ハルカとダイキがデジタル機器との関わり方に関する記事を読み、意見を交換する	・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<if節・疑問詞節>の構造や用法を理解する。 ・デジタル機器との関わり方について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
6	第三回 考查範囲	Lesson 5 Goal Setting	11	目標を達成するために効果的な目標設定のしかたを紹介	・目標設定において重要なことについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<seem+to-不定詞>の構造や用法を理解する。 ・自分の目標について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 6 The High School Hair Salon	11	高校生が運営する美容室で働く生徒たちへのインタビュー	・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<助動詞+have+過去分詞>の構造や用法を理解する。 ・就きたい職業について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
7	第四回 考查範囲	Lesson 7 You Can Make a Difference	12	バリ島に住むメラティとイザベルの姉妹によるレジ袋撤廃運動	・Bye Bye Plastic Bags計画について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<過去完了形(経験・完了・継続・大過去)>の構造や用法を理解する。 ・環境のために自分ができることについて、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 8 Nudge	11	命令や強制ではなく、小さな工夫で人の行動に影響を与える「ナッジ」の活用例を紹介	・ナッジについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<関係代名詞what>の構造や用法を理解する。 ・身の回りの問題の解決策について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 9 The Father of Braille Blocks	12	世界中で使われる点字ブロックの開発者、三宅精一氏	・点字ブロックの開発者について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<関係副詞(where / when)>の構造や用法を理解する。 ・だれもが暮らしやすい社会について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
8	第五回 考查範囲	Lesson 10 Do We Need That?	11	海外の人から見ると奇妙にも見える日本のサービスについて、留学生が議論する	・日本のサービスに対する留学生の考えについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<使役動詞(make / let / have)>の構造や用法を理解する。 ・必要/不要だと思うサービスについて、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 11 The Vancouver Asahi	11	太平洋戦争以前のカナダで活躍した日系カナダ人の野球チーム、バンクーバー朝日の実話	・日系カナダ人の野球チームバンクーバー朝日について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<知覚動詞+O+動詞の原形 / ~ing>の構造や用法を理解する。 ・人権の問題について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
9	第六回 考查範囲	Lesson 12 From Small Companies to the World	11	小さな会社が作る、世界に求められる製品を紹介	・日本の小さな会社の開発力について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。また、<仮定法過去・仮定法過去完了>の構造や用法を理解する。 ・日本で開発/改良された優れた製品について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 13 Preparation for the Next Year	1			
10	第七回 考查範囲	Lesson 14 Preparation for the Next Year	1			
11	第八回 考查範囲	Lesson 15 Preparation for the Next Year	1			
12	第九回 考查範囲	Lesson 16 Preparation for the Next Year	1			
1	第十回 考查範囲	Lesson 17 Preparation for the Next Year	1			
2	第十一回 考查範囲	Lesson 18 Preparation for the Next Year	1			
3	第十二回 考查範囲	Lesson 19 Preparation for the Next Year	1			

2年 論理・表現Ⅱ

○ 学習のねらい

多様化している生徒の実態を考慮し、「論理・表現Ⅰ」の内容を踏まえて、5つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化し、特に論理的に表現する能力を育成する。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

サブノートを使用し、各レッスンの学習項目を確認する。

2 授業中～授業中の注意点～

教科書を用いて授業を行うことが中心になる。

3 授業後～復習～

サブノートを使用し、確認する。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた総合的な言語活動を通して、論理的思考力や批判的思考力を理解している。							
II 思考・判断・表現	コミュニケーション活動や体験を通して、他者を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成する。							
III 主体的に取り組む態度	自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培い、学んだ内容の深化・発展に積極的に取り組む。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	小テスト	学習状況の観察	提出物1 課題	提出物2 グロスナビ			
I 知識・技能	◎	◎	○					
II 思考・判断・表現	◎	◎						
III 主体的に取り組む態度			◎	◎	○			

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	論理・表現Ⅱ	2年全クラス	2	MY WAY Logic and Expression Ⅱ (三省堂)	MY WAY Logic and Expression Ⅱ サブノート (三省堂)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	Lesson 1 I Love My Country!	8	現在完了形、過去完了形の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。 未来を表す表現の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	これまでの経験について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 自分の好きな場所について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C A・B・C
5		Lesson 2 The New Wave of Sports	8	助動詞を用いた表現の特徴やきまりに関する事項を確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。 〈助動詞+have+過去分詞〉、〈be動詞+to不定詞〉の特徴やきまりに関する事項を確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	週末の予定について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 最新のものについて、情報を詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C A・B・C
6		考查		1		
7	第二回 考查範囲	Lesson 3 The Future of Technol	5	不定詞(進行形・受動態・完了形不定詞、原形不定詞)の特徴やきまりに関する事項を確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	印象深かった授業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C
8		Lesson 4 Rediscover Kabuki	6	不定詞(名詞的/形容詞的/副詞的用法など)の特徴やきまりを確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。 知覚動詞、使役動詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。 歌舞伎について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C A・B・C
9		考查		1		将来の社会の状況と職業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。
10	第三回 考查範囲	Lesson 5 Will Our Lives Change with AI?	5	動名詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	無人レジについて、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C
11		Lesson 6 Experience Madagascar's Wildlife	6	分詞構文、〈with+O+分詞〉の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。 比較(比較級、最上級、同等比較)の特徴やきまりを確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。 比較(倍数表現、比較の強調など)の特徴やきまりを確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	ものの数や大きさなどについて、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 マダガスカル島について、情報や自分の考えを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C A・B・C
12		考查		1		
1	第四回 考查範囲	Lesson 7 Can We Go and Live on Mars?	8	関係代名詞、関係副詞の特徴やきまりを確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	火星での生活について、情報や自分の考えを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C A・B・C
2		Lesson 8 Language and Society	8	仮定法(仮定法過去、仮定法過去完了)の特徴やきまりを確認し、身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	イギリスとカナダで使われる英語の違いについて、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 「もし〇〇がなかったら」というタイトルで、情報や自分の考えを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。	A・B・C A・B・C
3		考查		1		
		新年度の準備				

2年家庭基礎

○ 学習のねらい

- ・人の一生と家族、福祉、衣食住、消費生活に関する基礎的・基本的知識と技術を身に付けることができる。
- ・家庭や地域の生活課題を主体的に解決できる力や、生活の充実向上を図る能力と実践的な力を身に付けることができる。

○ 学習方法

1 授業前～予習～

- 座学では、前回の学習内容を確認し、教科書を一通り読んでおくこと。
- 実習については、実習の目的と内容を確認し、手順を頭に入れておくこと。

2 授業中～授業中の注意点～

- 座学では、板書のみならず口頭での説明も聞き、大切なことはメモを取りながら受ける。
- 実習では、先生の指示をふまえて、積極的・自主的かつ安全に配慮して行動する。

3 授業後～復習～

- 座学では、ワーク・プリント類がまとめられているかを確認し、不十分な所は先生に質問して補っておく。
- 実習では、まとめのレポートを書き上げる。その際に空欄などないようにきちんと書き上げること。
- また、新たな発見や実習における成果や課題、改善点などの振り返りもしっかり行い、まとめておくこと。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は原則60%とする。

観点ごとのポイント					
I 知識・技能	生涯にわたる発達と生活を総合的に捉え、家族や社会との関わり、法律との関わりについて理解を深めること、また実験・実習を通して主体的に生活を営む技能を身に付けることができる。				
II 思考・判断・表現	生活の中から課題を見だし、解決策を構想し実践に結びつけ、振り返るという一連の流れに沿って課題を解決していく能力を身に付けることができる。				
III 主体的に取り組む態度	学習内容を自分の生活に置き換え、実践しようとしている。また、生活を科学的な視点でみることで、学習と家庭を結びつけることができる。				
評価の場面	考査	考査以外			
	①	②	③	④	⑤
	考査	ホーム プロジェクト	学習プリント	実習レポート	振り返り 自己評価
I 知識・技能	◎	○	○	○	
II 思考・判断・表現	○	◎	◎	◎	○
III 主体的に取り組む態度		○	○	○	○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
家庭	家庭基礎	2年 全員	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	なし	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考査 範囲	オリエンテーション	1	家庭科の学び方、ホームプロジェクト と学校家庭クラブ活動	□家庭科の学び方、ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動 について理解することができる	A・B・C
		1章・2章 生涯を見通して自 分らしい人生をつくる	5	A人の一生と家族・家庭及び福祉 (1)生涯の生活設計 (2)青年期の自立と家族・家庭	□将来の家庭生活や職業生活について考察し、生涯の生活設計 を工夫する □家族が協力して家庭を築く重要性について考える	A・B・C
5	第二 回 考査 範囲	9章・10章 持続可能な消費 生活を営むために	6	C持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画 (2)消費行動を意思決定 (3)持続可能なライフスタイルと環境	□家計の構造、家計管理について理解し、ライフステージと関連 付けた経済計画を考えることができる □消費生活のシミュレーションを行い、自立した消費者を目指す □生活と環境の関わりや持続可能な消費について理解し、持続 可能な社会へ参画することの意義について理解する	A・B・C
6		8章 住生活をつくる	5	B衣食住の生活の自立と設計 (3)住生活と住環境	□日本の伝統的な住居や和室について理解する □住まいの機能について理解する □ライフステージやライフスタイルに応じた住生活の計画ができ るようになる □快適な室内環境を整えるための条件を知る □防災などの安全や環境に配慮した住生活を工夫する	A・B・C
	考査		1			
7	第三 回 考査 範囲	3章 子どもと共に育つ	8	A人の一生と家族・家庭及び福祉 (3)子供の生活と保育	□子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴、子どもの生活や遊 びについて理解する □子どもと適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける □現在の子どもをとりまく環境を知り、子どもの健やかな発達と 環境とのかかわりについて理解する	A・B・C
		夏休みの課題		Dホームプロジェクトと学校家庭ク ラブ活動	・家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題設定し、解 決方法を考え、計画を立てて実践する	A・B・C
8	第四 回 考査 範囲	4章・5章 超高齢社会を共に 生き、共に支える	8	A人の一生と家族・家庭及び福祉 (4)高齢期の生活と福祉 (5)共生社会と福祉	□高齢社会の現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活、認知症 について理解する □高齢者における生活の課題について理解する □高齢者の自立を支える生活支援に関する基礎的な技能を身 に付ける □個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉の重要性 を理解する	A・B・C
9		考査	1			
10	第五 回 考査 範囲	7章 衣生活をつくる	8	B衣食住の生活の自立と設計 (2)衣生活と健康	□なぜ服を着るのか、着ることの意味を考える □衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能につ いて理解する □計画的な衣生活を送るために、衣服の購入・選択、洗濯・保 管、廃棄までの流れを理解する □環境に配慮した衣生活について工夫する	A・B・C
		6章 食生活をつくる	8	B衣食住の生活の自立と設計 (1)食生活と健康	□健康や環境に配慮した食生活について理解を深め、実践する 力を身に付ける □ライフステージに応じた栄養の摂り方や食品の特徴を理解する	A・B・C
11	考査		1			
12	第六 回 考査 範囲	6章 食生活をつくる	17	B衣食住の生活の自立と設計 (1)食生活と健康	□食品の選択、食中毒、食品添加物について理解する □実習を通して、調理に関する基礎的な技術を身に付け、食事 マナーを知り、楽しく食事ができるようにする □食品の自給率や食に関する環境について考える □環境に配慮した食生活について工夫する	A・B・C
1		1章 生涯を見通す		未来予想図(生活設計)完成	□1年間の学びを振り返り、生活設計を完成させる	A・B・C
2	考査		1			
3		新年度の準備				

第 1 回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
論理国語			
文学国語			
古典探究			
歴史総合			
数学Ⅱ			
数学B			
化学基礎			
物理基礎/地学基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅡ			
論理表現Ⅱ			
家庭基礎			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 2 回定期考査学習計画

【1】 定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】 各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
論理国語			
文学国語			
古典探究			
歴史総合			
数学Ⅱ			
数学B			
化学基礎			
物理基礎/地学基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅡ			
論理表現Ⅱ			
家庭基礎			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 3 回定期考査学習計画

【1】 定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】 各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
論理国語			
文学国語			
古典探究			
歴史総合			
数学Ⅱ			
数学B			
化学基礎			
物理基礎/地学基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅡ			
論理表現Ⅱ			
家庭基礎			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 4 回定期考査学習計画

【1】 定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】 各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
論理国語			
文学国語			
古典探究			
歴史総合			
数学Ⅱ			
数学B			
化学基礎			
物理基礎/地学基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅡ			
論理表現Ⅱ			
家庭基礎			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

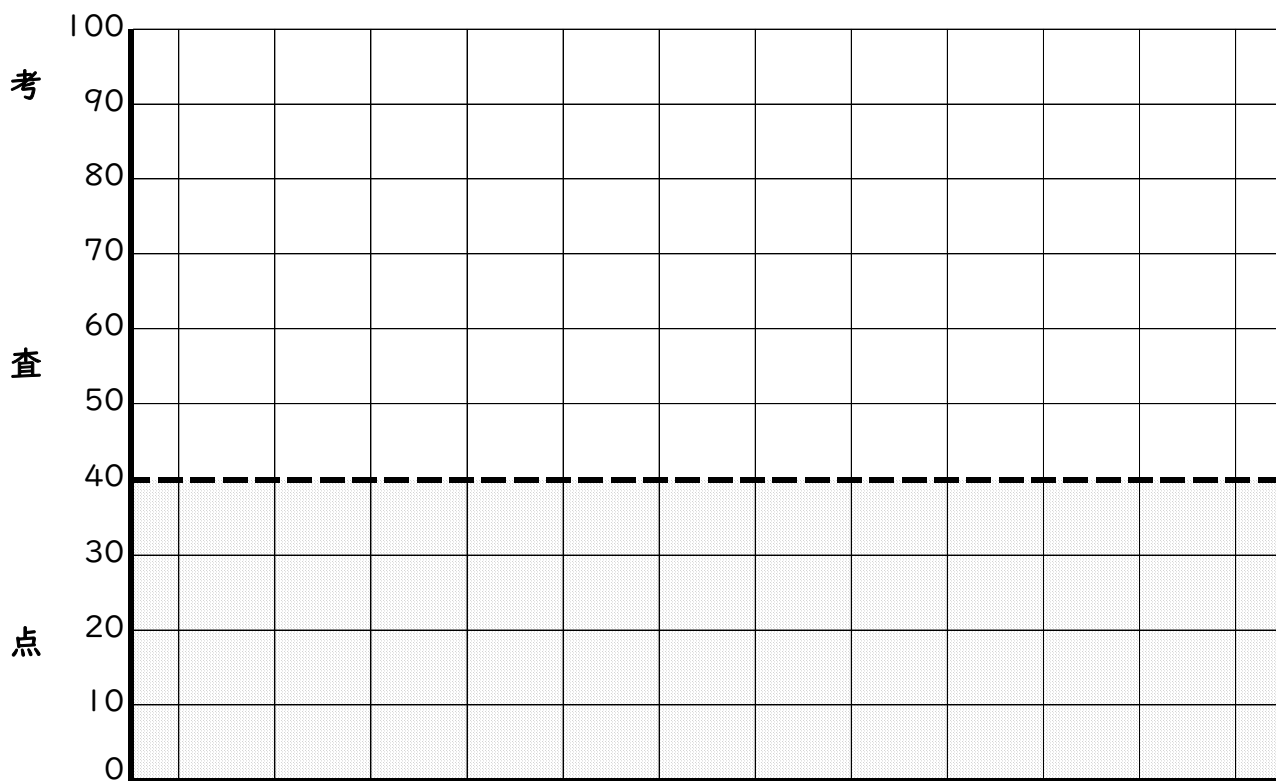
○ 考查点・評価点をまとめよう。

1期:黒

2期:赤

3期:青

4期:緑



科目名												
1期考查点												
2期考查点												
3期考查点												
4期考查点												

○ 評価点
のまとめ

1期評価点												
2期評価点												
3期評価点												
3期までの 合計点												
目標評定												
4期 目標点												
4期評価点												

評定「5」:評価点80~100点

評定「4」:評価点65~79点

評定「3」:評価点45~64点

評定「2」:評価点30~44点

評定「1」:評価点29点以下

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校